

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注1）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み	那覇市
チームがつけたアイデア名（公開）（注2）	那覇西湾岸エリアに多く暮らす在留外国人と地域が協働で作る安全・安心な防災に強いまちづくり		

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名（公開）	チーム AMMA (AMMA、アンマーは沖縄でもネパールでも「お母さん」という意味)		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1.市民	
メンバー数（公開）	3名		
代表者（公開）	高橋 海奏		
メンバー（公開）	当山 彩子、オジャ ラックスマン		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 確認後 OK なら右に○印を記入⇒○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>



災害に脆弱な那覇西湾岸エリアに暮らす在留外国人と

『集まろう (A)』『みんなで (M)』『守ろう (M)』『安心安全なまち (A)』

なんと・・・

沖縄県の「在留外国人増加率 **10.3%**（総数 20,347 人）」！！！！

※東京の在留外国人増加率 6.7%

【参考】都道府県在留外国人数の推移（令和4年6月末）より

また・・・

沖縄県内ネパール人の**増減率は76.9%**

県内最上位！！！！（20年末～22年末）

沖縄県の中でも特に那覇市は雇用や日本語学校の関係から多くの在留外国人が集中しています。

その中でも**那覇西湾岸エリアには8校の日本語学校が集中**しており、那覇市の中でも特に在留外国人が集中しているエリアです。また、この8校には**現在、約1200名の学生がおり、その8割がネパール人**です。

図表1 在留外国人の総数および国籍・地域別人数（沖縄県）



図表 2 在留外国人の総数および国籍・地域別人数（沖縄県: 上位 10 位）

さらに、那覇西湾岸エリアのほとんどは**津波浸水区域**となっており、地震津波が実際に起きた際には甚大な被害が出るのが想定されています。

(単位: 人、%)

	人 数						増 減 数		増 減 率	
	2020年12月末		2021年12月末		2022年12月末		20年未～22年未			
	総数	構成比	総数	構成比	総数	構成比	前年比	前年比	前年比	前年比
総数	19,839	100.0	18,535	100.0	21,792	100.0	1,953	3,257	17.6	17.6
1 ネパール	2,247	12.1	1,885	8.6	3,335	15.3	1,088	1,450	76.0	76.0
2 中国	2,624	14.2	2,461	11.3	2,673	12.3	49	212	8.6	8.6
3 米国	2,519	13.6	2,518	11.6	2,672	12.3	153	154	6.1	6.1
4 フリビン	2,235	12.1	2,206	10.1	2,343	10.8	108	137	6.2	6.2
5 ベトナム	3,054	16.5	2,622	12.0	2,234	10.3	▲ 820	▲ 388	▲ 14.8	▲ 14.8
6 インドネシア	975	5.3	890	4.1	1,542	7.1	567	652	73.3	73.3
7 韓国	1,353	7.3	1,243	5.7	1,351	6.2	▲ 2	108	8.7	8.7
8 台湾	831	4.5	709	3.3	781	3.6	▲ 50	72	10.2	10.2
9 ブラジル	581	3.1	642	2.9	767	3.5	186	125	19.5	19.5
10 インド	329	1.8	338	1.6	386	1.8	57	48	14.2	14.2

(備考) 米国には米軍関係を含まない。▲はマイナス。
(資料) 出入国在留管理庁「在留外国人統計」

つまり、「那覇西湾岸エリアは在留外国人（特にネパール人）が多いという特徴」と「地域のほとんどが津波浸水区域という特徴」から非常に脆弱であり、特異な環境であることから**平常時から災害に強い環境を整えることが喫緊の課題**であると言えます。

そして、私たちが解決したいポイントは以下の 4 つ・・・

(1) 在沖外国人の防災対応に強い地域の防災パートナー育成！

沖縄県那覇西湾岸エリアは 8 校の日本語学校が集中していることから、在沖外国人が多く居住しているエリアです。中でも在沖ネパール人の人口が最も多く、防災知識についても国による防災教育の違いから発災時の混乱が起こりやすい地域でもあります。また、地形的にも海が近く明治から始まった埋め立ての土地であることから脆弱であり津波災害が起きた時には甚大な被害が出るのが想定されています。そのため、在沖ネパール人と地域を繋げる人材育成がこの地域では喫緊の課題となっています。

(2) 在沖外国人と地域との“食”をきっかけとした防災コミュニティの醸成！

これまでの防災イベントや講演会などは防災学んで欲しい対象に「きてもらう」というスタイルが多い傾向にありました。しかし、本事業では「来てもらう→行く」という視点の転換から私自身が外国人コミュニティのドアをたたき在沖ネパール人と地域での防災コミュニティを展開していきます。**チーム AMMA には、当事者である在沖ネパール人のメンバーがいる**ため、そこ通じて行政では入りにくいより深いコミュニティへと入り込むことを目指します。

さらに、「防災」のイベントで課題となっている集客を“食”を通じて多くの人に防災へのハードルを下げ参加してもらえらる仕組み作りをします。

(3) 在沖ネパール人に対応した防災食の開発！

コロナ禍ではホテル療養の際にハラル対応が難しい日本食のお弁当が、在沖ネパール人にとって大きな課題となりましたが、ハラル対応をしたお弁当を提供できたことで「食と通じて那覇市がネパールの方達のことを気にかけている」「那覇市が見守っている」というメッセージにもなったという事例がありました。

災害有事の長期にわたる避難所生活においても同様のことが課題として出てくると想定されることから、既存の那覇市の防災食に一手間かけるだけでネパールの人たちにとって精神的なストレスを軽減する防災食の提案をします。

(4) 那覇市と連携した災害情報を得るためのフローの作成！

那覇市は現在 16 言語への翻訳ができるようになっていました。しかし、翻訳システムはだけでなく災害情報を得ることも沖縄に来たばかりの学生にとっては困難であり課題となっています。

したがって、私たちは在沖ネパール人に向けてイラストや解説動画などデジタルを活用しての「**防災言語のバリアフリー化**」を目指します。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

私たちは、具体的には以下の 5 つのプログラムを実施します！

1、AMMA の育成（防災パートナーの育成）

「地域の頼れる存在（AMMA）を見つける、育てる」

那覇市防災危機管理課をはじめとした防災のスペシャリストと連携をし、本事業の発起人のメンバーがレクチャーを行います。具体的には、防災情報をどこから見ることができるのか、在沖ネパール人学生に馴染みのない防災食の利用の仕方、有事の際の那覇市の相談窓口の紹介、また、有事の際に役立つ知識を AMMA メンバーが軸となり実施します。

2、AMMA モーニングの実施

「“食べて”学ぶ防災」

“食”をきっかけに防災を学べる場を設けます。この場にそれぞれの朝食を持ち寄り、食文化の違いや防災食につながるヒントを得る場を目指します。

実施する時間帯については、在沖ネパール人学生をはじめとした多くの外国人は、沖縄に出稼ぎで来沖している学生が多いことから学校以外の時間は仕事（アルバイト）をしているのが実態です。夕方以降の時間を確保することは難しいことから、学校に行く前または仕事に行く前の“朝の時間”を活用したいと考えています。

会場については、在沖ネパール人学生が普段から遊びの場、憩いの場として活用している那覇市若狭に位置する「波の上ビーチ」をはじめ他には在沖ネパール人学生のコミュニティーに訪問し実施いたします。

チーム AMMA には当事者である在沖ネパール人のメンバーもいることから、コミュニティにダイレクトに入り込むことができます。

AMMA モーニングに参加するメンバーは、在沖ネパール人学生、防災に関心がある人、異文化交流に興味がある人、言語を学びたい人、楽しいことをしたい人などなど、幅広く周知を行うことで、様々な立場の人がこの場に関われるような環境づくりを目指します。

200 人中 133 人が回答！！（回答率 66%）

参加したいという学生が約84%！！！！

【資料】チーム AMMA による在沖ネパール人の防災意識に関するアンケート

3. 防災食の開発

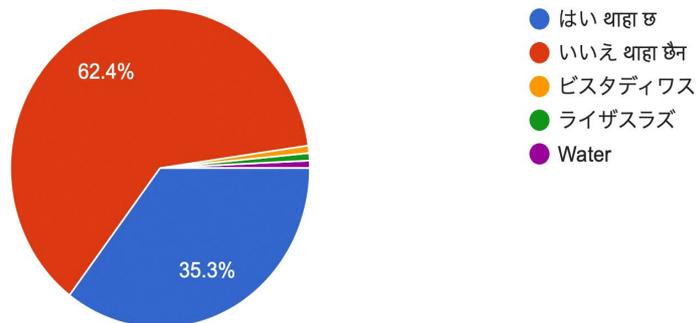
「胃袋も心も満たす防災食」

「AMMA モーニング」では各家庭から持ち寄った朝食を通じて異文化理解をするだけでなく、那覇市が避難所で提供している防災食を工夫し、在沖ネパール人をはじめとした南アジア系の在沖外国人が安心して食べられる防災食へのヒントとなる情報を収集します。その情報を元に、那覇市と協働での防災食の開発と既存の防災食を在沖ネパールに寄り添った形での調理の提案を進めます。

コロナ禍の那覇市では、多く在沖ネパール人もホテル療養を強いられた時がありました。その際に、ハラル対応の食事が提供されたことで「那覇市が自分たちの存在を認知してくれている」「那覇市が気にかけてくれている」という食を返したメッセージを発信することができた事例があります。つまり、彼らの食文化に寄り添った防災食を開発することは、精神的な負担を軽減することができることから、災害有事際の避難所での外国人対応をするマンパワーの削減にもなると考えられ平常時から取り組む必要があると考えています。

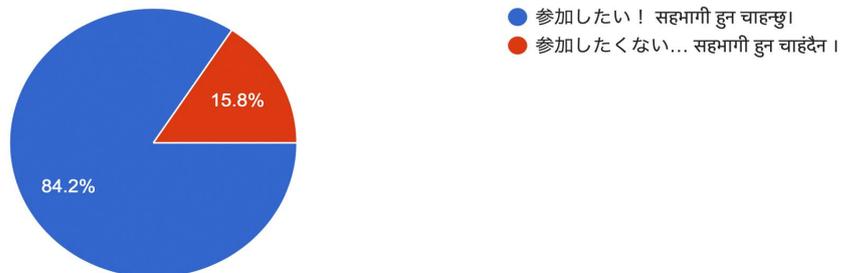
「防災食」を知っていますか？ दैवी प्रकोप को बेलाको खाना को बारेमा थाहा छ ?

133 件の回答



「AMMAカフェ」という朝ご飯を食べながら「防災」を学びつつ、地域の... , तपाईं सहभागी हुन चाहनु हुन्छ ?

133 件の回答



【アンケート調査】

チーム AMMA 実施
「在沖ネパール人の防災意識に関するアンケート」

4. 日本語学校をはじめとした外国人コミュニティでの炊き出し実践

「来てもらうから、行くへ・・・」

これまでの防災講座や防災キャンプなどは「対象に来てもらうスタイル」が多い中、私たちは日本語学校の連携のもと那覇市内の在沖ネパール人学生のコミュニティに直接赴き、彼らの生活圏内で那覇市防災危機管理課から防災食の提供をいただきながら、災害有事に役立つハザード対応の炊き出しを行います。彼らが日頃遊ぶ場所である「波の上ビーチ」だけではなく、今後はさらに、日本語学校の学園祭や在沖ネパール人が集う寺院などを予定しています。

また、私たちのメンバーには在沖ネパール人の当事者がいるため直接コミュニティに繋がることができ、さらには、沖縄の在沖外国人の中間支援をしている「多文化ネットワーク fu ふ！ 沖縄」とも連携をすることでそれらを強みに外国人のコミュニティに繋がっていきます。

5. 那覇市が出している外国人向けの災害情報にたどり着くため那覇市との協働でのフローの作成

「防災言語のバリアフリー化」

現在、那覇市が出している災害情報は 16 言語に翻訳が可能となっています。しかし、在沖ネパール人学生の多くは那覇市が提供している情報を翻訳できることや災害情報がどこから入手できるのかを把握している学生が少ないのが現状です。私たちは、情報の入手までのフローを那覇市と協働で作成し、那覇市が在沖ネパール人に届けたい情報についてわかりやすいフローを作成することで、災害に関する問い合わせの軽減及び避難所での言語対応のマンパワーの軽減を目指します。そのために、平常時から言語ツール（イラストも含む）を那覇市と協働でデザインをします。



参考資料①



参考資料②

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

【参考資料①】 沖縄観光コンベンションビューロー「災害時簡単コミュニケーションシート」

【参考資料②】 沖縄県「TYPHOON PREPARATION 台風の備え」

発災時に行政や地域が外国人に対してどのような対応を取ったのか、どのようなサポートをできたかは彼らの以降の世代が安全安心な町として那覇市を選択する上で非常に重要になるため、この実施内容をベースに他の外国人コミュニティにも展開できるようにモデルケースをネパール人コミュニティからはじめ横展開を進めていきます。

※那覇市はネパール、ベトナム、中国、フィリピン、ベトナムの順に多い

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

1、外国人の人口増加

那覇市には 5642 人、4030 世帯の外国人が多い順からネパール人、中国、ベトナム、韓国・朝鮮、台湾の方々が那覇市に居住しています（那覇市 外国人相談窓口より）。

特に、那覇市天妃小学校区のエリアは**日本語学校（日本語学校 8 校、約 1200 学生）**が集中していることから多くの外国人が学校周辺中心に居住しています。また、個人でではなくその家族も移住してきていることから在沖ネパール人の人口は 2023 年 6 月末の時点で 2233 人（法務省 在留外国人統計より 2023 年 12 月 15 日更新）であり、今後も増加の傾向にあると考えられます。また、移住してきた世代の子どもたちが小学校に上がる年齢になってきていることから、より地域との連携が必要であり、災害時にはコミュニティの強さが被害のおおきに直面することから喫緊の課題として取り組む必要があると考えます。

総数	中国	ベトナム	韓国	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	ミャンマー	米国	台湾
23019	2743	2339	1395	2377	840	3606	1854	421	2692	879
6147	956	764	434	294	73	2233	262	108	210	296

（参考）法務省「在留外国人統計 2023 年 6 月末」より

2、地域特性

沖縄県那覇市湾岸エリアは「那覇西地域まちづくり方針」に位置しているエリアにあります。

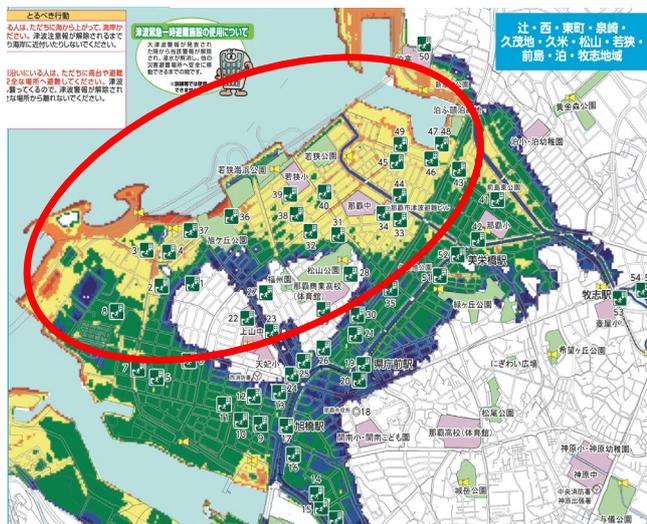
「那覇西地域まちづくり方針」にあるように、明治以降の本格的な埋め立てにより形成された海拔の低い地形であり、戦後の区画整備により碁盤目状の区画が広がっています。また、湾岸線や護岸整備がされていますが、**海拔が低いことから災害有事の際には大規模な津波避難が想定**されます。

繰り返しにはなりますが、日本語学校が集中しているエリアであることから在沖外国人が多く居住しており、また近年では、ホテルも増えてきている

ことから災害時に外国人をはじめ観光客など要配慮者が集中しているエリアです。彼らの特徴は、「**土地勘がない」「地域との繋がりが弱い**」などが挙げられます。特に沖縄に来たての学生やインバウンドの観光客については土地勘や文化慣習だけでなく言語という大きな障害があります。

したがって、日頃から在沖ネパール人学生が自助によって身の安全を確保することや在沖ネパール人学生を防災のパートナーとして育成することで、**発災時にはパートナーシップのもと動いてくれる“地域を担う一人”**として関係を現段階から築くことはこの地域において重要だといえます。

（資料）那覇市津波浸水想定マップ



3. 防災教育の違い

防災に関するアンケートを約 200 名の学生に実施し 133 名の在沖ネパール人学生の回答から「防災教育の違い」が見えてきました。アンケートを見ると大きく 2 つの回答に分けられます。

約 37%（青色）「建物外に逃げる」は学生の中でも比較的最近沖縄に移住してきており、沖縄でまだ防災訓練を受けていない学生の回答です。ネパールは日本と同じく大きな地震が起きた国ですが、一般的な建築物はレンガ作りであるため、地震が起きたら「外に逃げる！」という教育を受けてきています。

一方で日本の防災教育では「机の下に隠れる」など頭を守る行動をすることを教えます。約 40%の回答があった「机の下に隠れる」と回答した学生は、沖縄に一定期間在住しており日本の防災訓練を受けている学生の回答でした。

例えば、今年の 8 月にあった台風第 6 号の時には長期での断水が起こった時に、ネパールには海がないことから海の危険性を知らず、断水中のトイレの水を汲みにビーチに行ったなど海への知識がないため起きた事例もありました。

このようにそれぞれの防災教育と地域性の違いにより、発災時の初動に大きな差があることがわかりました。この差により、この地域でパニックが起きることも想定されることから**共通の防災教育（初動の動き）を確認しておくことは重要**といえます。

地震が起きた時に「自分の身を守るため」に最初に何をしますか？ भुकम्प आएको खण्डमा आफ्नो सुरक्षा अपनाउन को लागि के गर्नु हुन्छ ?

133 件の回答



4. 人材不足

さらに、有事の際に公共機関に相談をするのではなく、個人（学校の生活指導職員）に相談するケースが多く負担が一点に集中している実態を把握することができ、平時からネパール人学生へ「**正しく怖がる（災害の性質を知る）**」ことを共に学び、また、地域へ繋げることで彼らが**災害時の要配慮者ではなくパートナーとして地域で役割持って関われる人材育成**をすることが喫緊の課題であると考えます。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1. 実現する主体

チーム AMMA が主体となり実施します！

2. 実現に必要な資源

■ ヒト

- ① 在沖ネパール人学生：事業への参加及び将来の防災パートナー
- ② 那覇市防災危機管理課：防災食の提供、防災情報の提供、合同での災害情報フローを作成、地域防災
- ③ 那覇市観光課：観光客、外国人観光客、観光防災
- ④ 防災士会沖縄県支部：県内防災関係
- ⑤ 沖縄気象台：防災関係
- ⑥ 若狭地区の日本語学校：学校イベント情報提供、学生への周知協力
- ⑦ 観光危機管理研究所：防災のスペシャリスト
- ⑧ 那覇市市民生活安全課外国人窓口：在沖外国人への周知協力
- ⑨ 若狭児童館：居場所の提供、地域の親子世代とのチューター
- ⑩ 若狭公民館：場所の提供、地域とのチューター
- ⑪ なは市民協働大学院第7期生：事業のサポートやアドバイス
- ⑫ なは市民協働大学院チアーズ：企画のアドバイスなど
- ⑬ なは市民協働大使：那覇市に現在約800名いる巨大協働ネットワーク
- ⑭ 沖縄ネパール友好協会：沖縄のネパールネットワーク
- ⑮ 災害プラットフォームおきなわ（DMPO）：ラジオでの在沖ネパール人による防災情報の発信
- ⑯ 沖縄 NGO センター：在沖外国人のコミュニティ
- ⑰ 沖縄 JICA：在沖外国人コミュニティ
- ⑱ 多文化ネットワーク fu ふ！沖縄：在沖外国人の中間支援
- ⑲ ちむどん天妃（天妃防災井戸端会議、前年度なは市民協働大学院那覇西メンバー）：天妃小学校区の防災コミュニティ

■ モノ

- ① プロモーション：チラシの作成後、各関係機関に配置&SNSでの告知
- ② 防災食：那覇市防災危機管理より提供

③ 会場：（初回）波の上ビーチ、今後は天妃小学校区の防災キャンプや日本語学校の学祭、外国人コミュニティなどで実施予定

■ カネ

初回の AMMA モーニングは、10～15 名の小規模で実施予定のため、「持ち寄りスタイル」。

※那覇市まちづくり協働推進課より予算を調整

3. 実現にいたる時間時軸を含むプロセス

初回は、、、

1月27日（土）8：00～10：00

@波の上ビーチ

上記の日程にて「AMMA モーニング」を実施します！

その後、場所を展開していき前で説明した事業を実施します。